

家族内性愛に関する研究 (分担研究：小児の健康と養育条件に関する研究)

荒堀憲二*, 番内和枝**

要約 家族内性愛の実態と発生要因を探る目的で、父—娘関係は既存資料の18例と新たな事例5例を加えた23例を検討し、母—息子関係は電話相談の事例60例を検討した。その結果父—娘関係については、

- 1) 貧困で相談者のいない核家庭に発生し易い。
- 2) 父親は性格的に問題が多く、怠惰で酒癖が悪く乱暴であった。
- 3) 母親はIncestを黙認する傾向が強かった。
- 4) 娘は長女が多く、自尊感情が低く愛情欲求が強かった。娘の非行や妊娠が発見の糸口になっていた。父に対して受容的な子もいた。

母—息子関係については父親がいないか存在感の無い家庭で、一人っ子がほとんどであった。相談者は息子がほとんどで、彼らは母との性的接触は良くないことだと考えていた。

見出し語：Incest, 家族内性愛, 近親相姦, 電話相談

はじめに Incestは不浄、不潔、汚れを意味するラテン語 Incastus に由来し、タブーや社会の慣習、法律などで禁止された血族間の性的関係をさす¹⁾。Henderson (1976) はこのことを「同一社会単位内での、夫婦またはそれに匹敵する者以外の個人間、あるいは近い血縁にある個人間での、明瞭な性的興奮を伴った肉体的接触」と述べている。日本では一般に近親相姦と呼ばれるが、「姦」は悪事を意味するので、本研究では南の言う「家族内性愛」という言葉を用いた²⁾。

Incestについてはこれが認められた文化や社会が存在したことを考える³⁾と、必ずしもタブーの存在は普遍的とは言えないが、遺伝学的知見や現在の私たちの常識から考えれば、やはりタブーと見なすことができる。このタブーが破られる背景として、孤立した家庭、病的な精神状態や性格、アルコールや薬物中毒など家庭や家族メンバーの問題、あるいはメンバー間のつ

ながりに問題があると予想される^{4) 5) 6)}。従ってIncestの実態を調査し分析することは、家庭内の養育機能や人間関係のあり方に示唆を与えるものと考えられる。

しかしタブーはIncestの発生を防止すると同時に、それ以上にIncestの発見を妨げる効果を有している³⁾。例えばサンフランシスコでの訓練された相談員によるランダムな面接調査では、18才までの女性のIncestは16%もあった。この発生件数は信じられていたものより多かったが、しかし警察に届けられたのはその内の僅か2%であった⁷⁾と言い、Incestの実際の姿はタブーの壁に阻まれていると言えよう。

一方わが国においても、研究論文は極めて少数で、それも事例報告がほとんどである^{5) 6) 8) 9)}が、昭和58年度1年間に全国の児童相談所で48件のIncestが扱われている¹⁰⁾。これに、アジアの女性は、性的被害を隠そうとする傾向が他の民族に比べ強いと言われるような、文化の違い

* 国立公衆衛生院母子保健学部 (Dept. of Maternal and Child Health, The Institute of Public Health)

** (社)日本家族計画協会 (Japan Family Planning Association)

によるタブー¹¹⁾を考慮すると、わが国の Incest の暗数は以外に多いかも知れない。またこれまでほとんどの研究論文や調査報告が、父—娘関係であったが、近年電話相談の現場から母—息子¹²⁾¹³⁾の性的関係の存在を示唆する報告が上がっており¹²⁾¹³⁾、母—息子関係についても新たな検討が必要と思われる。

研究目的 家族内性愛の事例を調査し、その実態と発生要因を検討する。

調査方法と対象 初年度は最も一般的な単位である親—子の関係（法的な関係も含めて）の事例について研究を進めた。父—子（娘）関係についてはカルテ調査5例（病院1例、思春期相談所4例）、既存の資料と文献に報告された18例を対象とした。母—子（息子）関係については、S63年4月から平成元年12月まで、都内の健全母性育成事業所で行われた電話相談でのカルテを調査した。

使用資料・文献

- 1) 紀要—特集児童虐待の処遇について—。大阪市中央児童相談所。1989.
- 2) 池田由子：児童虐待の病理と臨床。金剛出版東京。1979.
- 3) 西川祐一：親の性的暴行。小児看護 6(6)。728-734. 1983.
- 4) 谷口優子：尊属殺人罪が消えた日。筑摩書房。東京。1987.

調査内容

1. 父—娘関係
 - 1) Incest の家族構成
 - 2) 父親像
 - 3) 母親像
 - 4) 夫婦の関係
 - 5) 娘像
2. 母—息子関係
 - 1) きっかけ
 - 2) 夫婦の形態
 - 3) Incest に対する子供の姿勢

結 果

I 父—娘関係

各々の平均年齢±SDと年齢範囲は次の通りであった

父親 45.50 ± 6.012 才 (36~60才)

母親 45.56 ± 7.017 才 (36~63才)

子供 14.78 ± 2.339 才 (10~20才)

子供 (初発) 11.82 ± 1.496 才 (9~14才)

1) Incest の家族構成 (表 1)

表 1 家庭像

	あり	なし	不明
父親	23	0	0
母親	21	2	0
兄弟	21	2	0
姉妹	9	13	1
祖母	2	21	0
相談先	1	14	8
生活保護	9	7	7

23家庭とも父親が存在するのは当然であるが、母親が Incest 発生頃に不在であったのは、2家庭だけであった。母の存在は Incest の防止には役だっていないと言える。兄弟のいる家庭が21と多く他の姉妹のいる家庭は9と少なかった。

他の家族構成員としては、祖母が2家庭にただけで、残りは核家族21（内父子家庭2）であった。祖母の内1人は寝たきり、一人は周囲から性格異常と呼ばれていた。家族問題の相談先がはっきりしていたのは1家庭だけで、これは聴覚障害のため、早くから福祉職員が出入りしていた。14家庭が親戚や近所との接触も無かった。残りは資料からは不明であった。生活保護は16家庭中9家庭が受給していた。このように貧困の上に家庭の内外で知恵を借りることが不可能な状況にあった。

2) 父親像 (表 2)

実父が16例継養父が7例であった。職業は無職7例、日雇い10例、常勤は1例で不安定な家庭の経済状況が伺えた。気分的にも衝動的・攻撃的で、生活態度もルーズな者が圧倒的に多かった。酒癖が悪い者も多く、精神病の疑いや性格異常、知能が低いと思われる例を合わせると15例あった。このうち9例は酒癖が悪かった。Incest までに犯罪歴を持った者7例を認めた。しかし娘との性行為をすんなり認めたとするような事例は無く、曖昧に受け答えした者4例、初めは否定した者が6例あった。これは Incest のタブーが消失してはいないことを示しているものと考えられる。

表 2 父 親

						不明
続柄	実父	16	継養父	7		0
職業	なし	7	日雇い	10	常勤	1
気分	不安定	15	安定	1		7
攻撃性	あり	14	なし	1		8
生活	まじめ	1	ルーズ	16		6
酒癖	悪い	13	飲酒無し	1		9
性行為	初め否定	6	曖昧	4	認める	0
犯罪歴	なし	12	あり	7		4
精神状態	精神病疑	3	性格異常	10	知能低	2

表 3 母 親

						不明
続柄	実母	19	継養母	2	不在	2
職業	なし	1	日雇い	5	自営	3
どちらの味方	夫	4	黙認	8	子ども	2

3) 母親像(表3)

実母19例, 継母2例, 残り2例は早期に死亡または離婚していた。Incest行為に対して, 黙認と思われるような態度をとったのは8例, 夫をかばったのは4例で, 子供をかばったのは2例しかなかった。夫をかばった4例中2例は継母であり, 娘への嫉妬心があった。残る2例はバーのホステスで, 再婚または愛人関係にあり, 男に逃げられまいとしていた。一方黙認の8例中, 望まない出産であり全く愛情がなかった1例, 分裂病1例, セックス拒否の代償2例, 娘より再婚相手が大切1例, 暴力が恐い(優柔不断・自己本位)等であった。

4) 夫婦の関係(表4)

夫婦仲が悪いのが17例, 外見上仲が良いと答えたのは聴覚障害の夫婦の1例で, これはIncestに会った子供の意見である。Sex全くなし或は殆どないと思われるが16例, ある程度あると思われるのが3例であった。ある程度あると思われる3例中2例が内縁関係で母親はホステスであった。

表 4 夫婦の関係

	良い	悪い	不明
夫婦仲	1*	17	6
SEX	3	16	4

* 本文参照

5) 娘 像(表5)

実母との分離体験のないものは23例中16例あった。残りは施設や親戚に預けられたり父親と暮らしていた。兄弟姉妹の順位は一人っ子2例, 長女19例であった。姉妹がいるのは9家庭でその内5家庭が, 姉妹で被害にあっていた。

Incestが発見されたり, 報告書が作成された時点では, 気分不安定なものが多かった。愛情欲求は15例中11例に強かった。性格は明るい・暗いが10例で同数, 孤独感を持っている者も持っていない者も同数で10例であった。自尊心を持っていると思われる者は1例だけであった。この1例は事件から4年経ており, 最近は寮に入っていた。知能障害がハッキリあった者7例, 無かった者4例, 残りは不明であった。身体虐待を伴ったのは7例あり, その内父親が精神病または性格異常であった者5例, 知能が低いもの1例であった。また7例の内酒癖が悪いものが6例あった。身体虐待はアルコールや性格異常が関係しているようであった。

Incestを起こした父親への態度は拒否10例, 受容6例, 諦め3例で残り4例は不明であった。発見のきっかけは非行として補導されたとき7例, 妊娠発見時6例, 教師が見つけたのが5例, 本人が教師に話した1例, 母子で逃げた1例であった。性的問題行動があったのが9例, それ以

表5 娘

								不明
母分離	なし	16	施設	4	他	3		0
順位	一人	2	長女	19	他	2		0
気分	不安定	13	安定	1				9
愛情欲求	強	11	弱	1	なし	3		8
明るさ	明るい	10	暗い	10				3
自尊心	あり	1	なし	16				6
孤独感	あり	10	なし	10				3
未熟性	あり	13	なし	4				6
知能障害	あり	7	なし	4				12
発見	非行	7	妊娠	6	他	19		1
成績	上	2	中	1	下	15		5
身体虐待	あり	7	なし	14				2
父への態度	拒否	10	受容	6	諦め	3		4
性的問題	あり	9	なし	8				6
他の問題	あり	10	なし	9				4

表6 母一息子関係

		SEX(+)	%	SEX(-)	%	TOTAL	%
		39		21		60	
キッカケ	MAS***	13	33.3	10	47.6	23	38.3
	入浴	1	2.6	3	14.3	4	6.7
	旅行	4	10.3	0	0.0	4	6.7
	他	6	15.4	3	14.3	9	15.0
	不明	15	38.5	5	23.8	20	33.3
道徳的に	良くない	24	61.5	6	28.6	30	50.0
	構わない	5	12.8	1	4.8	6	10.0
	分からない	1	2.6	3	14.3	4	6.7
	不明	9	23.1	11	52.4	20	33.3
姿勢	積極的	22	56.4	5	23.8	27	45.0
	諦め	2	5.1	0	0.0	2	3.3
	受容的	1	2.6	2	9.5	3	5.0
	否	2	5.1	2	9.5	4	6.7
	不明	12	30.8	12	57.1	24	40.0
夫婦(父)	離婚	11	28.2	3	14.3	14	23.3
	単身赴任	9	23.1	2	9.5	11	18.3
	不在がち	7	17.9	2	9.5	9	15.0
	死亡	5	12.8	3	14.3	8	13.3
	同居	2	5.1	9	42.9	11	18.3
	不明	5	12.8	2	9.5	7	11.7
兄弟姉妹	なし	24	61.5	16	76.2	40	66.7
	あり	5	12.8	1	4.8	6	10.0
	不明	10	25.6	4	19.0	14	23.3
相談者	本人	38	97.4	17	81.0	55	91.7
	父	1	2.6	3	14.3	4	6.7
	母	0	0	1	4.8	1	1.7

* SEX(+); 性交あり ** SEX(-); 性交なし *** MAS; マスターベーション

外の問題行動は10例（家出、万引、自殺企図等）あり、少なくとも一方の問題行動のあった者は12例、どちらも無し9例であった。また病院でfollowされた1例はストレスによると思われる強い身体反応を繰り返していた。

兄弟姉妹の問題行動は11例に見られた。

II 母一息子関係（表6）

各々の平均年齢±SDと年齢範囲は次の通りであった。

母親 41.13 ± 4.370才（36～57才）

息子 17.59 ± 3.175才（13～30才）

性交ありの者が39例無しの者が21例、全体で60例あった。きっかけはマスターベーションが最も多く次が入浴、旅行などであった。性的な行為について良くないと考える者が性交群に圧倒的に多かったが、良くないと思いながらも我慢できないようであった。

父親は離婚や死亡、単身赴任、不在がちを併せると性交群で94%だったが、非性交群は父が普通に同居している場合が多く、離婚、死亡、単身赴任、不在がちを併せて52%であった。兄弟姉妹は少なく一人っ子が多かった。性交群の5例の内4例は姉妹で、1例は知恵遅れの弟であった。相談者は父親4例（内3例非性交群、1例性交群）で、母親1例はマスターベーションを手伝うことについてであった。残り55例は本人からであった。

考察 核家族で父一娘Incestが起こるのは次のような、①娘が母の役割を演じる、②親の性生活の障害、③家の外で性的に発散できない父親、④誰も家庭の崩壊を望まない、⑤母親は無意識の内にIncestを認めている、の場合だと言う¹⁴⁾。①の例は少なかったが、同様の傾向は今回の調査でも認められた。Weinerは父親のタイプを①内向的性格、②病的性格（無差別乱交的）、③性的未熟（Pedophilia）に分類し、②③のタイプは当局からの告発や逮捕によって表面化するため統計的にはこのタイプが多いが、臨床報告では①のタイプも多く、彼らの教育程度や知能は高いと言う¹⁴⁾。今回の結果は①のタイプは1例だけで、②のタイプの問題の多い父親であったが、23例中19例が児童相談所が係わっており、

父親に偏りがある可能性がある。今後可能であれば臨床での床例を調査することが望ましい。また父親にIncest Tabooは存在していたと考えられることは注目すべきで、タブーが破られる背景を更に検討すべきである。父一娘Incestの母親は、未熟で依存的な女性^{3) 4)}だと言われるが、今回の調査でも母として妻としての役割を果たせず、精神的に自立できていないと思われる例が多かった。また態度がハッキリしている14例の内、子どもをかばおうとしたのは2例だけであったことは、黙認者であることがIncestの特徴であるという指摘^{3) 4) 14)}を裏付けている。

被害者である娘は、長女に多かったが、妹がいる場合は姉妹で被害に会う可能性が高く、早期発見の重要性を示唆している。後に特に問題を残さない例もあるが、売春をしたり無節操な性交を繰り返したり、自殺を計ったり、心気的な訴えを起こす例もあると言われる^{14) 15)}。今回の結果から分かるように、自尊心がなく、対人関係も浅いものであったり暗く孤独である上に愛情欲求が強ければ、後の異性関係に大きな問題を生じる可能性は高い。非行で補導されたり妊娠した子、学校で様子がおかしい子、原因不明の身体症状をくり返す子には、家庭内の人間関係の歪に注意し、Incestもその一つとして念頭におくべきだと思われる。

一方母一息子の関係では父一娘関係と対照的に、父親不在の一人っ子という心理的母子家庭が背景にあるようである。母一息子IncestをForwerdは3つのタイプに分けている³⁾。第1は性的交渉もなく、同じベッドで寝るとか一緒に入浴するといった無邪気なタイプである。第2はマスターベーションの手伝いをするなどの性的接触のある場合、第3は定期的な性交のある場合である。彼女によれば第3のタイプは極めて希で、精神的に異常のある場合に起こるとしている。Wahlsも同じ精神異常を指摘している¹⁶⁾が、Krugは8例の母一息子関係で、Incestの発生初期は母親に精神的異常は認めなかったと述べている¹⁷⁾。今回の電話相談のケースではタイプ1、2より性交を伴うタイプ3の方が多く、また母親に精神病があるような記録は全く

なかった。これは性交を行っているケースが多いというより、実際にはタイプ1, 2はもっと多いのだが、タブー意識が薄いため相談して来ない結果ではないかと考えられる。何れにせよ一定の結論を出すには、更に詳細な情報を得ることが肝要である。

文献

- 1) Rinsley, B.D., Rinsley, C.: Incest: Its developmental and familial context. *Seminars in Adolescent Medicine*, 3, 9-16, 1987.
- 2) 南 博: 家族内性愛. *小児医学*, 19, 129-144, 1986.
- 3) Foward, D., Buck, C., 佐藤亮一訳: 近親相姦. 河出書房新社, 東京, 1976.
- 4) Kosky, R.: Incest: What do we really know about it?. *Australian and Newzeal and Journal of Psychiatry*, 21, 430-440, 1987.
- 5) 西川祐一: 親の性的暴行. *小児看護*, 6, 728-734, 1983.
- 6) 池田由子: 児童虐待の病理と臨床. 金剛出版. 東京. 1979.
- 7) Russell, D.E.H.: The incidence and prevalence of intrafamilial and extrafamilial sexual abuse of female children. *Child Abuse & Neglect*, 7, 133-146, 1983.
- 8) 藤井和子: 性的虐待とその家族. *精神衛生研究*, 32, 27-37, 1985.
- 9) 滝井泰孝, 関口博久: 性的虐待について—仙台少年鑑別所に収容された9例を通して—*児童精神医学とその近接領域*, 28, 8-16, 1987.
- 10) 児童虐待: 昭和58年度全国児童相談所における家族内児童虐待調査を中心として(委託調査研究報告): 日本児童問題調査会, 1985.
- 11) Mollica, R.F. and Son, L.: Cultural dimensions in the evaluation and treatment of sexual trauma. *Psychiatric Clinics of North America*, 12, 363-379, 1989.
- 12) 川名紀美: 密室の母と子. 潮出版者, 東京, 1984.
- 13) 會根トシ: 電話相談にみる青少年のストレスと母親の関係. *現代のエスプリ*, No 227, 155-171, 1986.
- 14) Rist, K.: Incest: Theoretical and clinical views. *Amer. J. Orthophychiat.*, 49, 680-691, 1979.
- 15) Mullen, P.E., Romans-Clarkson, S.E. et al: Incest of sexual and physical abuse on women's mental health. *The Lancet*, April, 16, 841-845, 1988.
- 16) Wahl, C.W.: The psychodynamic of consummated maternal incest: A report of two cases. *Archives of General Psychiatry*, 3, 96-101, 1960.
- 17) Krug, R.S.: Adult male report of childhood sexual abuse by mothers: Case descriptions, motivations, and longterm consequences. *Child Abuse & Neglect*, 13, 111-119, 1989.

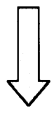
Abstract

Study on the parent-child incest in Japan

Kenji Arahori*, Kazue Bannai**

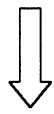
In order to clarify the background of incest families and causative factors in Japan, twenty three cases of father-daughter incest (eighteen cases of them already reported in literatures, five cases recently interviewed) and sixty cases of mother-son incest were investigated. Mother-son cases were derived from the charts of clients who consulted by phones. In father-daughter cases,

- 1) Poor helpless nuclear families were characteristic and father's abnormal personality, alcoholism, laziness and violence were common findings.
- 2) The mothers tended to turn a blind eye to events.
- 3) Many victims were the eldest daughters, having low self-esteem and strong desire to be loved. Delinquency and pregnancy were major opportunities that found out incests. Some of victims were accepting their fathers' behaviors. In mother-son cases, fatherless and only one child families were characteristic. Most of clients were sons and many of them thought "not good" to keep sexual contacts with their mothers.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 家族内性愛の実態と発生要因を探る目的で,父一娘関係は既存資料の 18 例と新たな事例 5 例を加えた 23 例を検討し,母一息子関係は電話相談の事例 60 例を検討した。その結果父一娘関係については,

- 1) 貧困で相談者のいない核家庭に発生し易い。
- 2) 父親は性格的に問題が多く,怠惰で酒癖が悪く乱暴であった。
- 3) 母親は Incest を黙認する傾向が強かった。
- 4) 娘は長女が浮く,自尊感情が低く愛情欲求が強かった。娘の非行や妊娠が発見の糸口になっていた。父に対して受容的な子もいた。

母一息子関係については父親がいないか存在感の無い家庭で,一人っ子がほとんどであった。相談者は息子がほとんどで,彼らは母との性的接触は良くないことだと考えていた。